

国分寺市でのペンシルロケット水平発射実験成功から60年の時を越えてつなぐ想い

私とペンシルロケット



日本の宇宙開発は、他国が軍事転用を意図して政府主導で行われたのに対し、一人の研究者・糸川英夫博士の構想から始まりました。昭和28(1953)年、糸川博士は、自身の構想について熱弁を奮いますが、積極的に協力してくれる会社は少なかったそうです。しかし、糸川博士の研究は、今日の日本の宇宙開発へとつながっていきます。

植松努さんは、北海道にある(株)植松電機の専務取締役で、北海道大学大学院教授の永田晴紀さんといっしょに、安全なカムイ式ロケット開発を進めています。小さな町工場が宇宙開発で実績を残すことで、多くの人たちが自分自身の可能性を信じてくれることが、植松さんたちの夢の一つです。

「できる」「できない」ではなく
どうやったらできるのか考える
それを教えてくれたペンシルロケット

第5回 植松 努さん〔株)植松電機専務取締役〕

ペンシルロケットを開発された糸川英夫先生は、中島飛行機の技術者でした。しかし、戦後、アメリカの対日占領政策で、「日本は航空宇宙に関する研究を一切やってはいけない」と、航空機開発は禁止されます。そのとき、多くの技術者は「もう作れないんだ」と絶望し、図面などを燃やしてしまいました。しかし、糸川先生は絶望せず、「航空機じゃなければいいんじゃない？」と、音響工学の教授になり、日本で初めてペンシルロケットの脳波測定器を作ります。1952年のサンフランシスコ講和条約公布によって日本が独立した時、糸川先生は、音響工学の研究から、超音速で飛べるロケットの開発で、日本の航空技術をつなこうと考えました。そして、3年後の1955

年、国分寺町(当時)で初めてペンシルロケットの水平発射実験を成功させるのです。その後、日本の宇宙開発は飛躍的に進化していきます。それでも失敗するたびに、「そんなことしても税金の無駄だ」「やめてしまえ」と言われます。でも、宇宙開発に関わる人たちは、やめないでがんばります。その結果、地球と火星の間の小惑星イトカワに探査機はやぶさを送り込みました。探査機はやぶさが成功したのは、「やめろ」と言われても、やめなかった人たちがいたからです。



カムイ式ロケットは、燃えにくい燃料を使っているため、(株)植松電機の敷地内でエンジンの燃焼実験ができ、植松家の子どもたちは、「ロケットエンジンは家で作るもの」という楽しい勘違いをしていました。

リアル「下町ロケット」 安全なカムイ式ロケットの打ち上げに 成功した小さな町工場

植松努さんが専務取締役を務める(株)植松電機は、従業員約20人の小さな会社です。植松さんは、「どうせ無理」という言葉がこの世界の可能性を奪っていると考え、「どうせ無理」なことはない、という想いから試行錯誤を繰り返し、安全なカムイ式ロケットの発射実験に成功します。そして、現在もその活動の幅を広げています。

▼著者プロフィール
(株)植松電機専務取締役・(株)カムイスペースワークス代表取締役・NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター理事

えるのではなく、「どうやったらできるのか」を考えるのです。そうすれば進化成長できます。それを、僕に教えてくれたのがこの小さなペンシルロケットです。

様式第1号の2 (第4条関係)
国分寺市長 殿
国分寺市寄附金申込書 (ペンシルロケットレプリカ用) 年 月 日
私は、国分寺市へ次のとおり寄附を申し込みます。

氏名 (団体名及び代表者名)	ふりがな		
住所 (所在地)	〒 -		
電話番号・FAX	(電話番号)	(FAX)	
寄附金額	円	希望機数	機
寄附金の使用 (希望するものに○)	<input type="checkbox"/> ①用途を指定しない(市長に委ねる) <input type="checkbox"/> ②国分寺崖線、樹林地、地下水、湧水の保全等 <input type="checkbox"/> ③公園の整備 <input type="checkbox"/> ④子育て施設や環境の整備 <input type="checkbox"/> ⑤高齢者の福祉サービス基盤整備 <input type="checkbox"/> ⑥障害者の福祉サービス基盤整備	<input type="checkbox"/> ⑦教育施設の整備 <input type="checkbox"/> ⑧公民館・図書館活動など社会教育の充実 <input type="checkbox"/> ⑨歴史遺産の保存・活用 <input type="checkbox"/> ⑩(仮称)国分寺市郷土博物館建設基金 <input type="checkbox"/> ⑪その他	<input type="checkbox"/> 分割寄附 (※1) <input type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目
市への応援メッセージ			
市HPでの公表 (※2)	氏名	承諾する・しない	金額
	メッセージ	承諾する・しない	
お礼の品の送付先	<input type="checkbox"/> 上記住所と同じ <input type="checkbox"/> 上記住所と異なる→以下ご記入ください。		
住所 (お礼の品の送付先)	〒 -		
名前	ふりがな	電話番号	

寄附金控除に係る申告特別申請書 (ふるさと納税ワンストップ特例制度) を希望する場合は右欄に☑をしてください。

個人情報は、寄附内容についての市からの問い合わせ、寄附金の納付書及び受領書、寄附金控除に関する申告特別申請書、ふるさと納税についての市からのお知らせ並びにお礼の品(希望された場合のみ)の送付のために使用します。上記目的以外に使用されることは一切ありません。

(※1) 分割寄附の注意
分割寄附の回数とは2回までとし、1回当たりの寄附金額は1万円単位とします。分割寄附の2回目は、分割寄附の1回目を行った日が属する年の翌年の12月中で市が指定する日までに行ってください。ペンシルロケットレプリカは、分割寄附の2回目を市が確認しましたらお送りします。分割寄附の2回目がお済みでない方の分のペンシルロケットレプリカについては、期限に達するまでは確保いたしますが、期限内に分割寄附の合計金額が10万円に満たない場合は、期限までの寄附金額に応じて他のお礼の品を受け取ることができます。期限間近になりましたら、改めて市よりお知らせいたします。

(※2) 未選択の場合は、匿名希望とします。

入手方法 ふるさと納税のお礼に 市民の方も申し込みできます

ペンシルロケットレプリカを贈ります

JAXA宇宙科学研究所共催・1,000機限定

- 申込書での申し込み
①左の申込書(拡大コピー可)を切り取って記入し、ハガキに貼り付けるか封書に入れて郵送で〒185-8501財政課へ
②A4用紙に貼り付けてFAX(042)325-1380または直接財政課(市役所第3庁舎)へ
- インターネットからの申し込み
ふるさとチョイス <http://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/13214> から※右のQRコードからもアクセスできます
★寄附金額10万円(連続した2年で分割可)ごとに1機贈呈します。
★確定申告またはふるさと納税ワンストップ特例制度の申請(以下「確定申告等」)をすることで、寄附金控除を受けることができます(下表参照)。

	給与収入 (*1)	全額 (*2) 控除されるふるさと納税額(年間目安額)	寄附の回数・金額	確定申告等の回数	実質負担額
ケース1	700万円	11万8千円	1回10万円	1回	2千円
ケース2	450万円	5万8千円	2回 5万円	2回	4千円

(*1) ふるさと納税を行う方の家族構成が、独身または共働き(子どもなしまたは中学生以下の子がいる場合)の場合
(*2) 2千円を除く

→市政戦略室(内441)